

News Letter

自治医科大学地域医療オープンラボ

Vol.32, March, 2010

1. プライマリ・ケア研究

つるかめ診療所 鶴岡浩樹

プライマリ・ケアの現場では、多種多様な問題に直面します。治療のエビデンスから民間療法、家族内のゴタゴタまで、健康に関することであればプライマリ・ケア医（PC医）は対応を迫られます。しかし、従来の医学知識の多くは、疾病中心、かつ科学的手法で導かれており、現場の問題解決に十分でないことが指摘されはじめました。現場のブラック・ボックスを紐解き、臨床に役立てるには、どうすればよいのでしょうか。



大きな車輪：ジェネラリスト・ウィール

北米では「すべてのPC医に研究の素養を」と謳った“Building research capacity”という運動が10年前に起こりました。PC医が研究に参加することで臨床の知が飛躍的に発展すると期待されたからです。先導者のKurt Stangeは、基礎研究や臨床研究などの量的研究、人類学や社会学で実施される質的研究、さらには両者を統合したマルチ・メソッド（ミックス法）を駆使すべきと論じ、ジェネラリスト・ウィール（図1）と呼ばれる研究戦略を提示しました。これは、臨床の知をいかに産み、いかに深め、これらを統合するにはどうしたらよいか示した車輪のモデルです。詳細は下記記事をご参照ください。（http://www.igaku-shoin.co.jp/nwsprr/n2006dir/n2668dir/n2668_02.htm）

私たちのルーツ

遺伝子医学、再生医学、IT革命、と医学の進歩は目覚しく、時代に取り残されるのではと不安に思うPC医も多いでしょう。このような劇的な変化に翻弄され、PC医が身につけた伝統的なスキルを忘れてしまうのも当然かもしれません。私たちのルーツともいえるこのスキルは、患者に寄り添い、観察し、傾聴し、触れ、記憶を呼び起こし、待ち、記録することです。プライマリ・ケアの先駆者達は普遍的な科学という枠組で、これらのスキルを大切にし、人生の抒情詩を堪能し、その証人としてふるまいました。結果として、高血圧の自然経過、水痘の予後や早期発見、生活習慣病や遺伝性疾患など家族内に発生する疾患、良性洞性不整脈の自然経過などの見識を深めたのです。



図1 ジェネラリスト・ウィール
(Stange KC, et al. Fam Med 33(4):286, 2001)

小さな車輪

PC医にとって重要な研究は、現場の疑問に焦点をあてた研究で、これをpractice-based studyと呼びます。図2のように、漠然とした臨床の疑問は、一般的な医学知識と現場で生じる現象のギャップから気づかれます。続いて情報収集、リサーチ・クエスションの絞り込み、研究デザイン、データ収集、解析、結果の解釈、適用の順に進みます。得られた結果を現場に還元することで新たな疑問が生まれ・・・、つまり、このプロセスも車輪に例えることができます。ジェネラリスト・ウィールを大きな車輪とすれば、こちらは小さな車輪です。

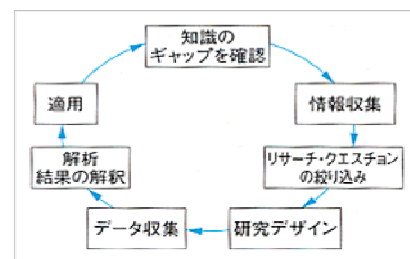


図2 practice-based researchのプロセス
(Stange KC, et al. Fam Med 33(4):286, 2001)

私たちのすべきこと

これら大小の車輪を回転させるために、PC医はどう行動すればよいでしょう。Stangeはジャーナリングとリフレクションの実践を呼びかけています。ジャーナリングとは日々の診療で気づいたこと、感じたこと、不思議に思ったことを記録する作業です。リフレクションは自己の診療を振り返り、反省し、次の診療に生かすことです。このような地道な作業を繰り返すことが、新しい知につながるというのです。

古くて新しい私たちのスキルが研究の分野で期待されています。

2. 社会人進捗状況審査会

2009年度の社会人大学院進捗状況審査会が地域医療オープン・ラボにおいて下記の日程で行われました。社会人大学院生21人のうち、4年生5人と長期履修制度等を利用して現在休学している3人を除く13人を対象に研究の進捗状況が審査されました。担当指導教員である加藤敏教授、中村好一教授、渡辺英寿教授、梶井英治教授、市村恵一教授、星野雄一教授および指導協力教員の柳澤健教授、中田正範准教授、牧野伸子講師、大森司講師が大学院生を伴い出席して下さいました。また、大学院医学研究科委員会幹事会幹事長の小澤敬也教授と大学院医学研究科教育委員会委員長の小澤敬也教授と古川雄祐教授にご協力頂きました。地域医療オープン・ラボからは亀崎と熊田が参加致しました(表1)。

表1. 社会人大学院進捗状況審査会の日程と参加者

					幹事長	教育委員会	オープン・ラボ	
		大学院生	指導教員	指導協力	小澤教授	古川教授	亀崎	熊田
2/12(金)	15:00 ~ 15:30	KA	中村 教授		○		○	
2/26(金)	13:00 ~ 13:30	TN	梶井 教授	石川准教授		○	○	
	13:30 ~ 14:00	RY	梶井 教授	石川准教授		○	○	
	14:00 ~ 14:30	EK	梶井 教授	石川准教授		○	○	
	14:30 ~ 15:00	TS	梶井 教授	石川准教授		○	○	
	15:00 ~ 15:30	TK	渡辺 教授			○	○	
3/5(金)	14:00 ~ 14:30	MK	市村 教授	牧野講師		○		○
	14:30 ~ 15:00	HS	星野 教授	中田准教授		○		○
	15:00 ~ 15:30	YN	星野 教授	大森講師		○		○
	15:30 ~ 16:00	MK	星野 教授			○		○
	16:00 ~ 16:30	AN	富永 教授	柳澤教授				○
3/12(金)	13:00 ~ 13:30	KM	加藤 教授	中田准教授		○	○	
	13:30 ~ 14:00	YA	丹波 教授			○	○	

審査方法は、指導教員の紹介に続き、大学院生にパワーポイントによるスライドで15-20分間研究内容について発表をして頂き、その後、問題点や今後の方針について話し合われました。発表された研究テーマは臨床医学研究、基礎医学研究、疫学研究、臨床疫学研究など多岐にわたるものでした(表2)。多くの大学院生の進捗状況は順調と思われました。この審査会は社会人大学院生にとって、担当指導教員から研究している分野の重要性を改めて聞いたり、研究全般について再考したりする良い機会になったと思われま

古川教授から「各先生(大学院生)共、臨床の合間によく研究されている」とのコメントを頂きました。

表2. 社会人大学院進捗状況審査会で発表された研究テーマ

- ・ 総合的喫煙対策が医療機関職員および受信者の喫煙行動・意識に及ぼす影響に関する研究
- ・ 患者数の将来予測、二次医療圏単位の人口変化が医療資源に与える影響
- ・ 暗黙知から明示知へ
- ・ 日本人における循環器疾患の発症に関連する危険因子
- ・ 高感度C-reactive proteinと心筋梗塞発症に関する検討
- ・ Acetazolamide 負荷光トポグラフィーによる脳虚血診断法の開発
- ・ 嗅覚再生に関する遺伝子解析
- ・ 中枢神経を介する骨代謝の研究
- ・ SIP 受容体を標的とした脊損治療
- ・ 骨格筋 fiber type 変化に関与する神経因子
- ・ 樹状細胞における ST2 タンパク質のリガンド機能についての研究
- ・ バルプロ酸の膵β細胞に対する影響
- ・ 緩和ケアにおける予後予測

【発行】自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm